

提出 21年 3月 16日

会合議事録

研究会名：構造物性研究会

日時：2009年3月13日 9:00-18:00

場所：東京ステーションコンファレンス

出席者：(議事録記載者に下線)

青柳 忍、秋光 純、加藤 健一、北川 進、北川 宏、澤 博、高田 昌樹、
福山 秀敏、村上 洋一、大隅寛幸、寺崎一郎、有馬 孝尚、西堀 英治
計 13名

議題：第二期構造物性研究会の今後の方向性

議事内容：SPring-8 を利用した先端的な構造物性研究の報告が多数行われるワークショップへの参加することにより第二期構造物性研究会を取り巻く状況の変化を把握し、参加者した会員で今後の研究会の方向性を議論した。

放射光連携研究ワークショップの場で行われているため、特に研究会として場所を設けた講演、会合は準備しなかった。ワークショップにおける研究会の会員の講演(筆頭発表者として名前を連ねたもの)は以下である。

SPring-8 の光と放射光スピン構造科学 有馬孝尚(東北大/理研)
スピン秩序研究からうまれる新しいマグネティズム 秋光純、高阪勇輔(青山学院大)
配位空間による電荷・スピンの自在生成と機能創製 北川進(京大/理研)
放射光による新エネルギー材料の研究 北川宏(九大)
ワークショップ総括 次世代物質科学がSPring-8に期待するもの 福山秀敏(東京理科大)

全14件の講演のうち5件が構造物性研究会代表を含む会員による講演であり、磁気散乱を始めとした高度なSPring-8利用、新材料・新機能性材料の構造物性研究に関する報告が行われた。会議中だけでなく休憩時間、昼食、懇親会において会員の間で、現状のSPring-8の高度利用と今後の構造物性研究に関して数多くの議論が行われた。